

ダイナミックな構図で梅や菊などの植物が彫られている、讃岐彫のお盆。讃岐彫は古くから四国の讃岐地方に伝わる技法です。彫刻刀を使って高い部分と低い部分を作り、それによって模様をくっきりと出し、その上にスリ漆塗りを数回ほどこし、模様の部分に色漆で彩色を施し乾燥後、菰打ちをして仕上げたものです。文様は主に、花鳥や菜果が用いられています。無垢材を贅沢に使い、お盆としてだけでなく、絵のように飾っていただける、木製のくりぬき飾り盆です。

漆器のまつだ：  
四君子彫 丸盆 42cm 38,000円



「独楽塗(こまぬり)」は、ろくろのひき目に沿って色漆で同心円状に塗った文様のことで、縁起物である独楽は「よくまわる」ことから、ものごとが滞りなくまわるように、円満にまわるようにとの意味もあり、転じて、商売繁盛、五穀豊穡、家内安全などの願いが込められています。木地はすべて国産天然木を使い、お重はくりぬいて作られています。指物(組み立て)と違い、継ぎ目が全くないので非常に丈夫です。

川口屋漆器店:二段丸重こま 20,000円  
御枕こま 10,000円

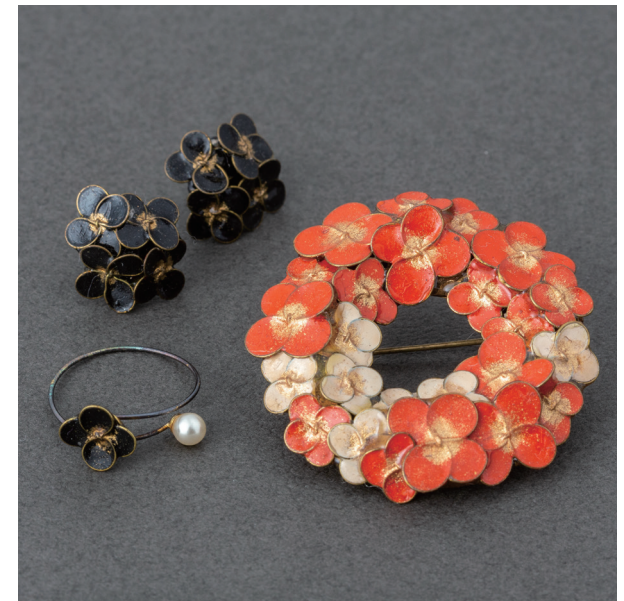


香川県の特産品の讃岐うどんやオリーブハマチ・盆栽などを鮮やかな色漆で表したボウル。少し深めのポップなデザインで、使うと楽しい雰囲気になります。しっとりとした落ち味の質感は、漆独自の奥からにじみ出てくる艶を生み出し、使い込むほどにその味わいを深めていきます。

中田漆木:さぬき角丸ボウル 各5,000円

ワイヤーで組んだ花びらに漆をかけた「うるし花アクセサリー」シリーズ。繊細な漆が醸し出す質感。深い黒と鮮やかな朱色、やわらかな白。細かな花びら一枚一枚に、漆ならではの艶やかな色が施されています。そっと耳元を彩ってくれる可愛いサイズから、華やかにみせてくれる大ぶりのものまで、ひとえ咲・やえ咲・みだれ咲・しだれ咲など、バリエーションあり。

うるしの漆原：  
うるし花アクセサリー3,500円～



# 香川漆器

KAGAWA SHIKKI

江戸時代に高松藩主である松平家が、茶道・書道に付随して振興・保護したのが始まりです。

江戸後期には、香川漆器の始祖と言われる玉楮象谷(たまかじぞうこく)が、中国伝来の漆技法に独自の技を加えて新しい手法を創案。現在まで受け継がれ、蒟醬(きんま)、存清(ぞんせい)、彫漆(ちょうしつ)、象谷塗、後藤塗の5つの技法は、国の伝統的工芸品に指定されています。独自の発展を遂げた伝統的な工芸品は、今でも暮らしの中で愛され続けています。

※商品価格は全て税抜き表記です。